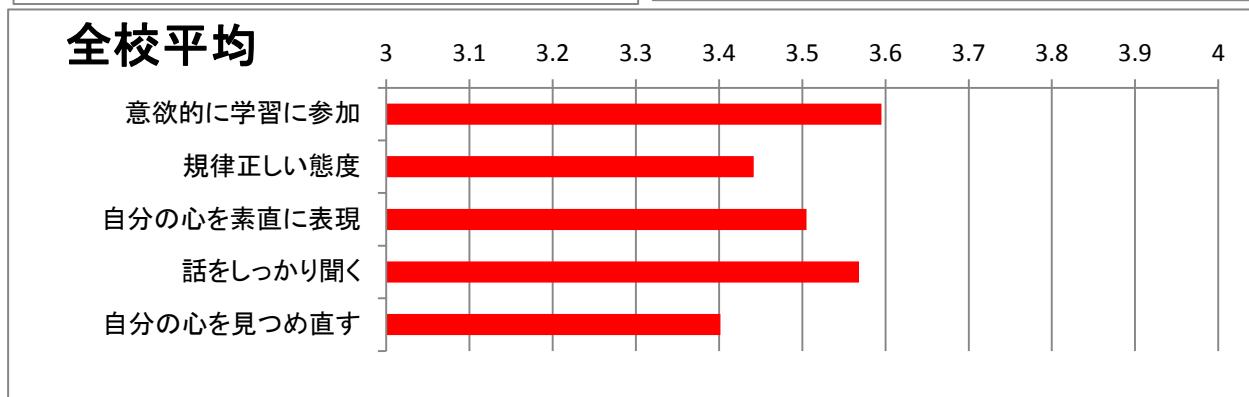
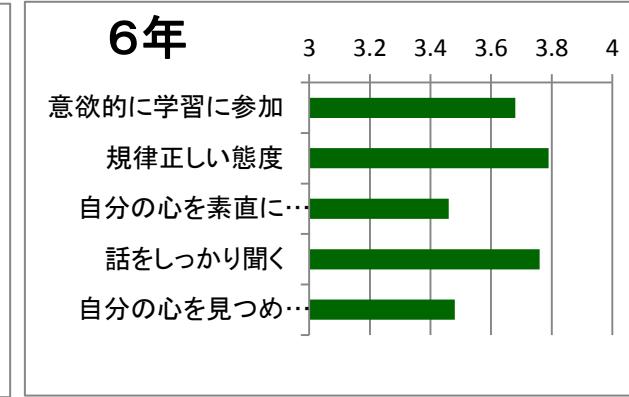
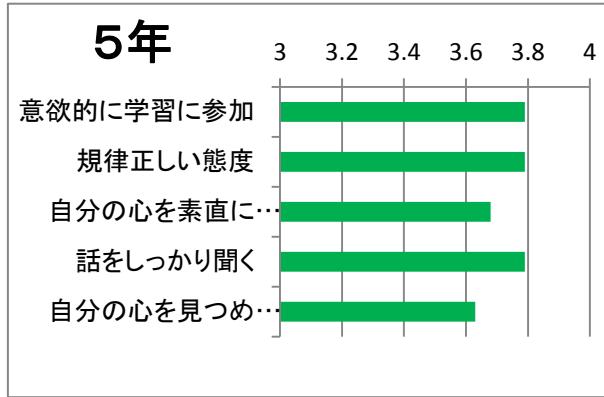
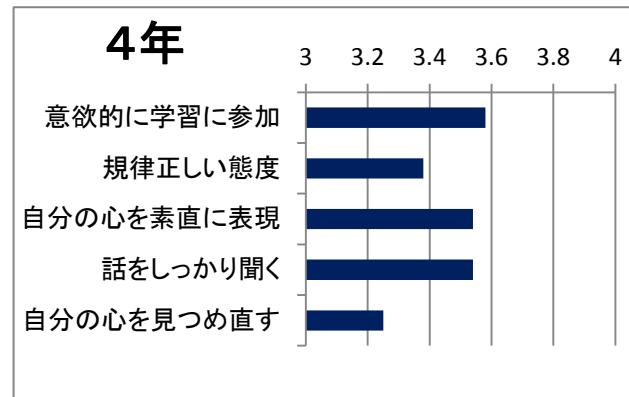
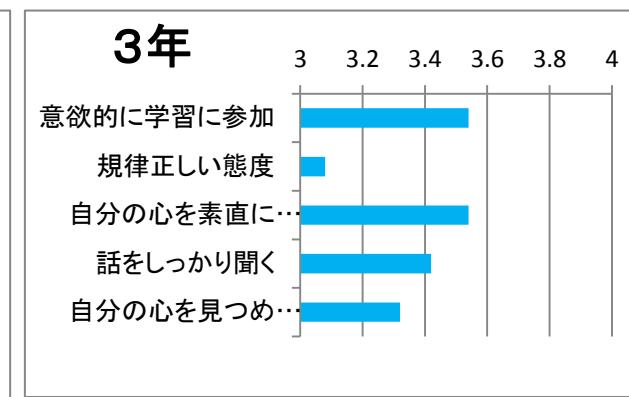
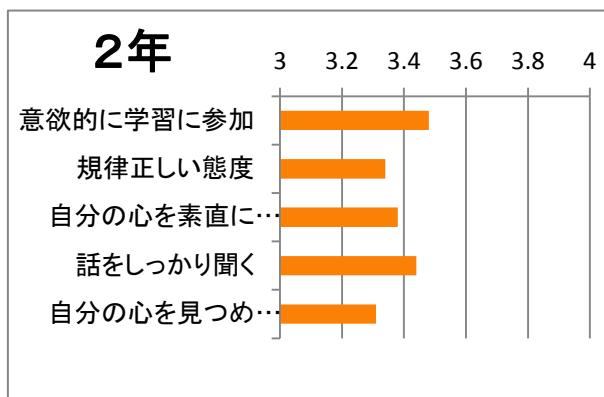
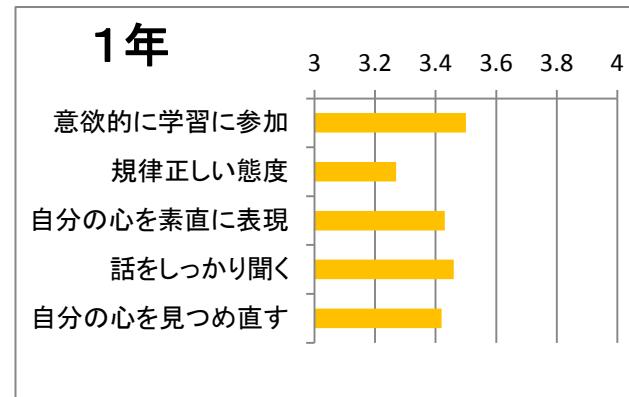


道徳参観アンケート集計結果

平成25年度

春日小学校



【考察】

○どの学級・学年も全項目でよい評価をいただいている。特に道徳の時間の学習は、自分の心を素直に表現できることや自分の心をしっかりと見つめ直すことが大切で、その両項目ともに高い評価を得ているのは、とても価値あることだと言える。また、前回の国語・算数参観アンケートで比較的評価が低かった「話を聞く」が、今回は高い評価となった。これは、前回の課題を踏まえて、各学級・学年で「話の聞き方」の改善指導が行われた成果だと考える。

【自由記述から】

～保護者より～

- 体を動かしての学習で、生き生きと学んでいた。
- よく授業が工夫されていてよかったです。
- 子どもたちの発表を聞いて、素直な心が見えました
- 緊張しながらもどの子も頑張っていて成長を感じた。
- 全員が発表できるように、発表していない子に促してくれていたので、自分の子どもの発表する姿が見られてよかったです。
- 5時間目のせいか少しほんやしている子もいたが、先生が一人一人に心配りをしてあつたので参加できていた。
- 今回の授業は、子どもの心に留まってほしい内容だった。大きくなつてもこの授業を思い出してほしい。
- 「命」という難しいテーマだったが、子どもたちからすごくいい意見が出ていて、4年生でここまで深く考えられることに驚いた。
- よく話を聞いていて、自分なりに考え方を出していたので感心した。
- 当たり前のことを当たり前にやれる日本人になってもらいたい、と思った。
- 愛国心を育てるいい授業だったと思う。自分たちは何を大切にしているかを客観的に語れるようになってほしい。眞の国際人は自国の文化を語れるものだと思う。　○悪いところを直そうとする授業をよく見るが、よさを再認識する授業で、嬉しい気分で見ることができた。
- 日本によさを再認識し、忘れていたことを思い出した。
- 「生きる」とは？大人でも難しい問い合わせだった。日常の生活に追われ考えることはないが、じっくり考えるいいきっかけになった。
- 子どもたちがこの授業で、今一度生きると言うこと、命の大切さをよく考えてほしいと思った。もちろん私たち大人も…。
- 教室の中がとても熱いのにびっくりした。その割に子どもたちはみんな頑張っていた。
- 廊下でおしゃべりをする保護者が少なく、静かで授業が聞きやすかった。
- 発表の声が小さくて聞き取れなかった。
- 椅子をがたがたさせたり手遊びをしたりしていたのが気になった。
- テーマが難しいからか、自分の意見を積極的に発表できていなかったように見えた。ただ表情はみんな真剣だった。

～地域より～

- 学習が終わり、最後に先生に礼をする際、全員が大声で「ありがとうございました」と言っているところが大変素晴らしい感銘した。
- 廊下が静かだった。親がおしゃべりをしていて、子どもたちに「ちゃんと聞きなさい」…は通じない。

食育講演会 『「命ってなんだろう～「お弁当の日」が教えてくれたこと』

講師 比良松 道一 先生

(九州大学大学院農学研究院)

～西日本新聞「食卓も向こう側」の専属講師としてもいろいろなところでご活躍～

～保護者より～

○お弁当の日と聞いて、正直めんどくさいと思っていたが、わたしが生きている間に子どもに生きていく力を身につけてほしいと思った。弁当の日が楽しみになった。

○「お弁当の日」は面倒だなと思っていたが、講演を聞いて考えが変わった。主人はいつも残っていて、子どもにだけ残してはいけないと言ってきたが、説得力に欠けるなと思った。主人を説得しようと思った。

○正直、お弁当づくりは面倒だと思っていたが、お話を聞いて、まだ1年生だけできることだけでもやらせて、自分で作った弁当を食べてほしいと思った。

○子どものために！ 今まで手を延べ助け、何不自由ない環境をつくっていたが、これからは子どもたちのために少しずつでも子どもにさせようと思った。

○今日のお話を聞いて、日本の食生活、食文化は危ない、とても心配になった。先生がおっしゃっていた「人の喜ぶ顔が見たい」「人を幸せな気持ちにしたい」という気持ちを体感できるかが大切だと分かった。私たち大人は、「食べることはいただくこと。人を幸せにすること。明日・未来へつながっていくこと」と言うことを伝えていかなければいけないと思った。「お弁当の日」をきっかけに、我が家でも春日小でも新しい風が吹いてほしいなと思う。また、ぜひ、子どもたちにも比良松先生のお話を聞かせる機会をつくってほしい。

○「弁当の日」をやりたいと思っていた一人として、学校が取り組んでくれたことに感謝する。子どもに「食の大切さ」「命の大切さ」を伝えることも大切だが、私たち親が考えるいいきっかけをもらったと思う。

○わたしが作ったお弁当に文句を言ったりするので、ぜひ自分でつくらせてみたいと思った。

○とてもユニークな講演でおもしろく、為になった。耳の痛い話も多々あり、いろいろと反省する点があった。

○弁当の取組、新聞等では知っていたが、子どもにもたらす効果については理解していなかった。食の大切さは、頭では理解しているのに内容の配慮が行き届いていない。少しでも改善していきたい。

○「お弁当の日」は一手段であって、その先の「子どもたちに生きる力を身につける」ことが大切だということが分かった。子どもたちの成長のために「食」を考え直すいい機会になった。お弁当の日が楽しみになった。

○この学校で弁当の日は初めてなので、小4の男の子は何もできないが、今日から少しずつでも教えていきたい。

○この講演を聞かなければ、弁当の日の目的も知らずにその日を迎えるところだった。食に対する知識はもちろん、考え方も変わった。子どもや周りの人たちに今日の有り難いお話を伝えていきたいと思った。

○「大人がつくる環境が子どもの育ちをつくる」と何度も言われたが、子どもは大人の背中を見ているということだと思う。無意識な行動が知らず知らずのうちに子どもに影響を与えていたということ。子どもの力を信じて、与えすぎず、手を出さず、やらせたいと思う

○朝ご飯、パン食をさせることがある。自分の手抜きで食べ物が変になっていると感じた。子どもが好きなものを食べさせることが多く、外食も多かった。大学生の食事で、お菓子やファストフードが多く、怖いなあと思った。○改めて子どもに伝えていかなければならない大事なことを、自身を持っていかねばと背中を押された。弁当の日に向けて、子ども用の小さめの包丁を準備してみた。何事もきっかけを第一步に…。○昨年中1の長男が頑張ってつくってくれたお弁当を思い出した。「小学校でもお弁当？」とびっくりしていたが、とても意義あることだと理解できた。長女と一緒に取り組みたいと思う。

～地域より～

○春日小学校の「お弁当の日」がとても楽しみになった。「かわいそうな子は一人もいない」という言葉が、お弁当の日を進めていく力になったと思う。我が家でも、春日小のお弁当の日に、みんなでお弁当をつくりたいと思う。全校の家庭、保護者に聞いてもらいたい講演だった。